



# 学校だより

12月号

平成29年12月1日  
横浜市立善部小学校  
校長 小澤 紀子

## 緑のバトン

学校長 小澤 紀子

校庭の桜の葉が色づき、紅葉の風景が校長室の窓から望まれます。そういえば去年は11月に初雪が降り、紅葉の赤と雪の白というコントラストを不思議な思いで眺めたのもこの校長室の窓からでした。あっという間の1年間でした。今年も残すところ一月となり、ただ今個人面談の真っ最中です。ご来校くださっている保護者の皆様、本当にありがとうございます。昨年まで体育館で行っていた作品展を、今年はそれぞれの学年での展示・掲示と変更いたしました。規模は小さくなりましたが学校中に子どもたちの作品があふれています。どうぞご覧ください。

さて、校長室・保健室の前の通路に、今ドウダンツツジが植えられています。30cmに満たない小さな苗木です。実はこのドウダンツツジは、40周年に向けてここ数年積み立ててきたベルマークの一部で購入させていただきました。PTA会長さん・学年学級委員さん・そして運営委員会でご賛同をいただきベルマーク担当の方にご尽力いただきました。「みちびきカウントダウン」に引き続き、40周年記念事業、第2弾です。

「緑のバトン運動」は東日本大震災の被災地産の苗木を学校購入し、自校で1年前後育てた後、植樹のために被災地に戻す運動です。この5年間で幼、小、中、高、特別支援、大学まで全校から438校が参加し、福島、宮城、岩手、青森の4県27カ所に7600本の苗木が植えられてきたそうです。震災から5年経った今もなお復興半ばの被災地のために、私たちができること、忘れず応援し続けること、そんなことに子どもたちが気づいてくれたらうれしいと思って参加いたしました。そして先日、岩手県北上市から小さな苗木が届いたのです。もちろん、みなさんが集めてくださったベルマークは、子どもたちのために40周年の記念の品を購入いたします。その一部を自分たちのためだけでなく、誰かのためにも使うことに意義を見出す子どもたちであってほしいと願っています。

環境委員会の児童が苗をプランターに植え替えてくれました。落葉樹なので葉が落ち、枯れているかには見えますが、その枝の先にはすでに新しい芽がついています。みなさんご存知でしょうか？このドウダンツツジは旭区の木なのです。春には白いつぼ型のかわいらしい小さな花が咲きます。そして秋には真っ赤に紅葉する素敵な木です。この春には花は無理だと思いますが、1年間みんなで大切に育てていきたいと考えています。そしてこの旭区の木が被災地のどこかで根付き、人々に喜んでいただけたら、こんなにうれしいことはありません。

環境委員会の児童が考えてくれました。「1週間に一クラス、当番クラスを決めて水やりを行う。その当番のために『緑のバトン』を作ろう。」1週間ごとに緑のバトンが全クラスに回ります。緑のバトンをつないで全校で苗木を育て、来年には被災地へバトンをつなぎます。

私たちの活動が被災地の緑化支援のほんの小さな一助となれば幸せなことです。

11月25日にはPTA主催のミニサッカー大会が行われました。PTA会長さん・保健委員さんをはじめ、たくさんのお父さんもボランティアとして参加してくださり、子どもたちと一緒に汗を流しました。楽しいひと時でした。毎年ご指導してくださっている方にお話をお聞きしたところ、このサッカー大会は20周年記念行事・サッカー教室としてスタートしたとのことでした。それからたくさんのお父さんが関わってくださってきました。もちろんお母さんもです。毎年楽しみにしてくださっているとのことでした。ここでも大切にバトンが繋がれてきた活動がありました。低学年の時から毎年参加している子もいます。本当にありがとうございます。

私たちもたくさんのお父さんの想いがつまった未来へのバトンを、大切にしっかりとつないでいきます。